



# 営農NEWS



## ショウガ栽培における病害虫の防除対策

ショウガは高温多湿の環境を好み、乾燥には弱い作物です。しかし、排水の悪い圃場では、地上部が生育しても根部の肥大が劣って腐敗も多くなります。このため、作土が深く、排水性に優れ、保水力のある肥沃な圃場が適します。また、日陰の場所でも葉色が鮮やかに生育しますが、塊茎の肥大を促すためには高温、多日照が必要になります。

生育の適温は 25～30℃で、低温の限界は 15℃くらい、15℃以上の温度で萌芽します。寒さには弱く、10℃以下になると塊茎が腐敗しやすくなります。

県内では、ハウスを利用した葉ショウガ栽培と、露地が主体の根ショウガ栽培の 2 つの作型があります。

ショウガ栽培において特に重要な病害は、根茎腐敗病です。本病は、前作の罹病残渣が越冬して土壤伝染したり、感染した種根茎を植え付けることにより圃場に持ち込まれ、雨で圃場が浸冠水した場合に多発生し、感染株が拡大する傾向が見られます。防除対策として、①発病株の早期発見に努め、早めの除去、②圃場排水性の改善や高畦栽培、③感染していない健全な種根茎の使用、④生育中に有効薬剤の予防散布や発病初期の防除徹底、⑤発病圃場の土壤消毒などが必要になります。生育中の防除対策として、下記の表 1 を参考に、梅雨期などは特に防除の徹底に努めてください。

その他、病害では紋枯病、いもち病、白星病などがあり、害虫ではアワノメイガ、フキノメイガ、イネヨトウ、ハスモンヨトウ、ネコブセンチュウなどがあります。このうち、アワノメイガ、フキノメイガ、イネヨトウは茎葉に穴をあけて幼虫が食入し、虫糞を出すので確認しやすいのですが、発見が遅くると多発生してしまうと茎が枯れて大きな被害となります。6 月頃より発生しますが、特に被害の大きいアワノメイガは 7 月後半頃から目立ってきます。ハスモンヨトウは、8 月後半頃より発生する傾向です。これらの害虫はいずれも、早期発見、早期防除が特に重要となります。

表 1 ショウガ根茎腐敗病の主な防除薬剤（平成 26 年 6 月 6 日現在）

薬 剤 名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ユニフォーム粒剤※	18 kg/10a（生育期土壤表面散布 または定植前作条土壤混和）	収穫 30 日前まで / 3 回以内
リドミル粒剤 2 ※	10～20 kg/10a（生育期土壤表面散布 または定植前作条土壤混和）	収穫 30 日前まで / 3 回以内
ランマンフロアブル	500～1,000 倍（2～3ℓ/m <sup>2</sup> 土壤灌注）	（生育期）収穫 30 日前まで / 3 回以内
プレビクールN液剤	400～600 倍（3ℓ/m <sup>2</sup> 土壤灌注）	（生育期）収穫 30 日前まで / 5 回以内
オラルク顆粒水和剤	2,000 倍（1ℓ/m <sup>2</sup> 土壤灌注）	（生育期）収穫 3 日前まで / 3 回以内

注）※印の 2 薬剤は、いずれも有効成分メタラキシルまたはメタラキシルMを含みますので、いずれかまたは 2 剤合わせて総使用回数が 3 回までです。十分注意してください。

表 2 ショウガ紋枯病の主な防除薬剤（平成 26 年 6 月 6 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
モンカットフロアブル 40	2,000 倍	収穫 3 日前まで / 5 回以内
バリダシン液剤 5	800 倍	収穫 14 日前まで / 4 回以内
ダコニール 1000	1,000 倍	収穫 14 日前まで / 5 回以内

表 3 ショウガのアワノメイガ、フキノメイガ、ハスモンヨトウの主な防除薬剤（平成 26 年 6 月 6 日現在）

対 象 害 虫			薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
アワノメイガ	フキノメイガ	ハスモンヨトウ			
○	○		パダンSG水溶剤	1,500 倍	収穫 7 日前まで / 5 回以内
○		○	トルネードエースDF	2,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
○		○	ラービフロアブル	750 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内
○			スカウトフロアブル	1,500 倍	収穫前日まで / 5 回以内
○			オルトラン水和剤	1,000 倍	収穫 45 日前まで / 2 回以内
		○	コテツフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040